



長野県豊丘村にて松茸山を視察

職員しぼり

農林産業の方向性を探る

建設産業常任委員長 奥村 英二

【視察研修のねらい】

御嵩町の農林産業の活性化を目的として、林業構造改善事業（松茸の生産と流通）を導入している長野県下伊那郡豊丘村及び、「おやき」の製造販売（第三セクター方式による会社の設立）をしている同県上水内郡小川村について十一月七日・八日に渡り視察研修をしました。

事業を実施した。

現在の状況は、公有林の管理運営及び松茸等の販売は、森林組合に委託されており、山林の環境整備については、松茸発生環境整備仕様書により上木・雑木の間伐、落ち葉の掻き取りなどを行っている。松茸の生産量は、年間平均約四トンで、その収益は二億円強であり、生産の基本は、山林の環境整備の良否とのことであった。

【豊丘村の事業と現況】

同村は、人口約七千二百人で、村の約八〇％を森林で占めている。森林活用の方法として、資源活用型林業構造改善事業を導入し、平成七年「松茸山発生環境整備」の指定を受け、平成八年から三力年計画により公有林について総事業費七千九十一万五千四百円（補助率二分の一）で

【小川村「おやき」事業の現況】

同村の人口は三千七百人で、農家戸数の七〇％が高齢者で占めている。村民有志が「農地の荒廃を防ぐには村の農産物に付加価値を付けて売ること。」などと語り合う中で、かつては村の主食が粉物の、うどん・そば・おやきであったことに着目し、地元農協が昭和六十一年に長野県農協地域開発機構の「ふるさと田舎事業」の指定を受けたことから農協と村民有志が出資を行い第三セク

【まとめ】

本町の山林は貴重な財産ではあるが、環境の不整備から荒廃が進んでいる。今後、環境の整備がなされ、その結果として松茸の発生が復活できればと思う。また、遊休農地が目立つ状況を考えると、高齢者の生きがいを含める対策として特産作物の研究を進め、農地の荒廃防止対策の指導と、町内有志及びリーダーの育成が望まれる。

福祉介護と

少子化対策

民生文教常任委員長 植松 康祐

民生文教常任委員会は、社会の大きな問題の一つである『少子高齢化』の現状の中で始まった福祉介護と少子対策に取り組んで来ましたが、平成十二年十一月十四・十五日に愛知県高浜市で「福祉自治

体を目指す高浜市の実情」と静岡県戸田村の「幼稚園と保育園の合築施設の運営と管理」についての研修をしました。高浜市では森市長を交え、いきいき広場長寿課で研修を